

News Letter

Vol.50 / 2025.01

日立財団では、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックスなど、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください！

多文化共生社会の構築

電子ジャーナル

日立財団 グローバル ソサエティ レビュー 3号



本ジャーナルは、多文化共生に関連する学術分野の有識者が相互に専門性を生かし、有機的な交流を図るためのプラットフォームとして、学術分野における新たな発想や視点の醸成に貢献することを目的に発行しています。

2024年12月に発行した第3号では「Art × 多文化共生」をテーマに、ドキュメンタリー映画上映会&公開インタビュー、戯曲、論文、エッセイ、インタビューなど、Artを通した多彩な視点から多文化共生を考えました。

巻頭言 — 是川編集長より

今号の作品はどれも作り手と作品の関係を自覚的、懐疑的に捉えつつ、オーディエンスの受け止め方も含め、多層的に構成されたものですが、そういった試みがArt × 多文化共生というイシューを扱う際、まさに核心にあることを端的に整理いただいています。

こうした特徴はいずれも本ジャーナルの目的や性格とそのまま重なるものです。その意味では本ジャーナル自体が「Art × 多文化共生」の試み、作品の一つということもできると思います。



巻頭言	Art × 多文化共生
巻頭特集	ドキュメンタリー映画上映会 & 公開インタビュー 「Journey to be continued — 続きゆく旅 —」
戯曲	ファミレス、グラス、居酒屋、ジレンマ
インタビュー	Art × 多文化共生 / 飾り付けアートが孤立と貧困を支援
対談インタビュー	移民として生きるとは ——ラッパーの Moment Joon が語る日本での表現と認識
エッセイ	親切が隠せない真実 — 『日本移民日記』を読み直して
論文	アートと多文化共生社会
連載	「統計から読み解く移民社会③」
編集後記	

巻頭特集 ドキュメンタリー映画上映会&公開インタビュー

「Journey to be continued — 続きゆく旅 —」

この映画は2016年、岐阜県のNPO法人可児市国際交流協会によって企画され、高校への進学をめざす海外ルーツの若者たちの姿を映した作品です。上映会では、岩井成昭監督をお招きし、制作の流れや意図、展開について、公開インタビューを実施。観客席に集まった61人と意見を交わしました。



日立みらいイノベータープログラム

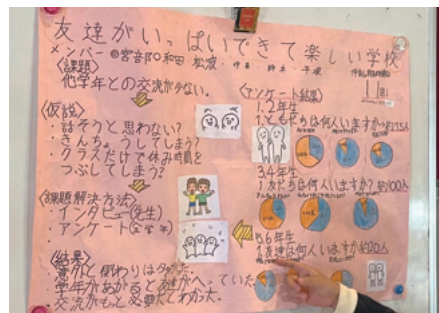
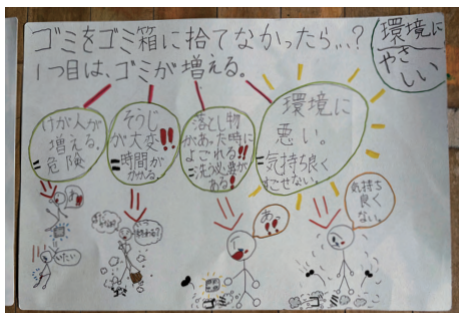
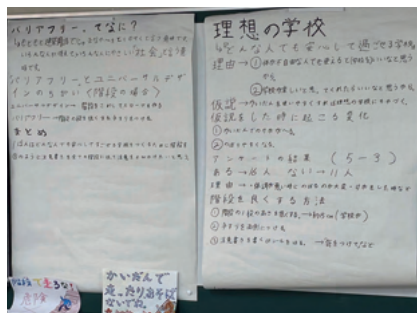
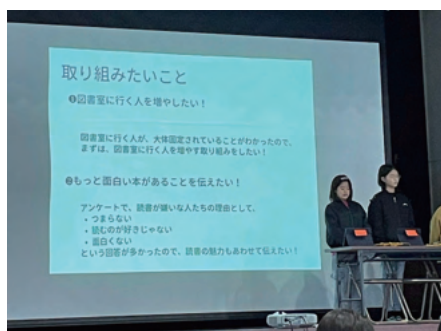
2024年度出張授業

日立財団は、これからの理工系人財に求められる問題発見力や、課題解決力を育成するために、小学校5年生を対象としたプロジェクト型探究プログラムとして、日立みらいイノベータープログラムを開発しました。2016年より、日立グループ各社と連携し、出張授業を実施しています。

2024年度は、大分県豊後高田市立高田小学校、茨城県日立市立仲町小学校、千葉県柏市立光ヶ丘小学校、千葉県習志野市立鷺沼小学校、東京都渋谷区立上原小学校の全5校で実施しました。

児童のみなさんが考えた

理想の学校



理工系女子応援プロジェクト

パイオニアトーク&ワークショップイベントレポート公開



2024年7月20日(土)、東京工業大学(現 東京科学大学)において「未来を変える理工系女のお仕事～女性が活躍するエネルギー分野について～」と題して開催したパイオニアトーク&ワークショップのイベントレポートを、日立財団ウェブサイトにて公開しました。ぜひ、ご覧ください。



日立財団アジアイノベーションアワード

2024年度アワード受賞者決定

日立財団アジアイノベーションアワードは、ASEANの社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションを促進するために、2020年度より開始した表彰事業です。

本アワードでは、持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰します。

2024年度は、ASEAN6か国（インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナム）の26の大学・研究機関を対象に、SDGsのゴール12「つくる責任 つかう責任」とゴール13「気候変動に具体的な対策を」のそれぞれ以下のターゲットに貢献する研究および研究開発の成果を募集しました。



ゴール12「つくる責任 つかう責任」

ターゲット 12.2 天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用、12.3 生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少、12.4 化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減、12.5 再生利用及び再利用により、廃棄物の発生削減、12.8 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイル、12.a 科学的・技術的能力の強化



ゴール13「気候変動に具体的な対策を」

ターゲット 13.1 強靱性（レジリエンス）及び適応能力を強化、13.2 気候変動を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む、13.3 教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善、13.b 女性や青年、地方及び社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てる

対象大学・研究機関から推薦による応募を受け付け、厳正なる審査の結果、14名の受賞者が選定されました。2025年1月末に日立財団ウェブサイトにて受賞者および研究概要を公開予定です。



最優秀賞 300万円

環境にやさしい養殖魚病害防除とバイオ肥料生産のための海藻の廃棄物ゼロプロセス

国 インドネシア 所属機関 ガジャマダ大学 氏名 Dr. Alim Isnansetyo

12.2 12.4 12.5 12.8 12.a



本受賞者は、褐藻ホンダワラ属の海藻であるサルガッサム sp.の養殖業における免疫賦活剤とワクチンへの活用、およびその残渣を利用した農業用バイオ肥料の生産を核とする技術開発を行いました。免疫賦活剤、ワクチン、バイオ肥料のゼロ・ウェイスト生産システムは、持続可能な養殖、農業の生産性向上に大きく貢献します。



優秀賞 100万円

フルフラール製造および廃水処理への応用を目指したバイオマスからのナノマテリアル合成

国 ベトナム 所属機関 ホーチミン市工科大学 氏名 Dr. Hieu Huu Nguyen



本受賞者は、トウモロコシ、バガス、ヤシなどのバイオマスからセルロース、ヘミセルロースを抽出しフルフラール（基礎化成品）やグラフェン、エアロゲルを合成する研究開発を行いました。



優秀賞 100万円

環境革新型複合製品としてのジオポリマーとアルカリ活性材料

国 フィリピン 所属機関 デ・ラ・サール大学 氏名 Dr. Michael Angelo Baliwag Promentilla



本受賞者は、石灰フライアッシュとニッケルラテライト鉱床の産業廃棄物から、革新的なジオポリマー技術と環境に配慮したアルカリ活性材料を開発しました。



優秀賞 100万円

ベトナム固有種薬草由来の医薬製品の研究開発

国 ベトナム 所属機関 フェエ大学 氏名 Dr. Nhung Ai Thi Nguyen



本受賞者は、トゥアティエンフエ省の薬草から有効成分を特定、環境に優しい抽出技術やシミュレーション法を使い、エッセンシャルオイル、ハーブティー、薬用キノコなどの医薬製品の開発を行いました。



優秀賞 100万円

テンペ産業の副産物を利用したマイコプロテインの生産

国 インドネシア 所属機関 ガジャマダ大学 氏名 Dr. Rachma Wikandari



本受賞者は、テンペ産業の副産物である大豆煮汁から、マイコプロテインを培養・生産することに成功し、高タンパク質・高繊維含量・低脂肪・すべての必須アミノ酸を含む栄養豊富な製品を生み出しました。



奨励賞 50万円

機械化学および表面工学（MCS）のアプローチを活用した高活性金触媒とバイオマスベースのナノ複合材料の開発

国 ベトナム 所属機関 ハノイ工科大学 氏名 Dr. Dien Xuan Luong



アンサンブル予測を用いたインドネシアの気象予測改善による気候レジリエンスの強化

国 インドネシア 所属機関 スラバヤ工科大学 氏名 Dr. Heri Kuswanto



感染対策と免疫調整のための多用途の生体機能化医用材料の開発

国 インドネシア 所属機関 ガジャマダ大学 氏名 Dr. Ika Dewi Ana



世界のメタン収支に及ぶフィリピン湖沼の影響度の理解

国 フィリピン 所属機関 アテネオ・デ・マニラ大学 氏名 Dr. Milette Mendoza Pascual



ラオス・ルアンパбан県における豚の飼育による環境・気候変動に対する豚ふん尿汚染の管理

国 ラオス 所属機関 スファヌボン大学 氏名 Dr. Nouphe Manivanh



コメ生産・水産養殖の持続可能性に向けたエコ戦略

国 ベトナム 所属機関 トンデックタン大学 氏名 Dr. Phuong Nguyen Xuan Vo



持続可能な紙生産に向けたバクテリアナノセルロースへの製紙スラッジの変換

国 ベトナム 所属機関 ホーチミン市工科大学 氏名 Dr. Quan Dinh Nguyen



大豆かすと大豆残渣の高付加価値化によるカンボジア産大豆イノベーション

国 カンボジア 所属機関 カンボジア工科大学 氏名 Dr. Reasmey Tan



ベトナム産農産物による健康への利益と持続可能な植物性製品の開発

国 ベトナム 所属機関 ハノイ工科大学 氏名 Dr. Trang Thu Vu



日立財団科学技術セミナー

「疲労とはなにか～すべてはウイルスが知っていた」開催

11月30日(土)、第20回 日立財団科学技術セミナーを開催しました。

オンライン(zoomウェビナー)による開催で、550名のたくさんの方にご参加いただきました。

今回のテーマは「疲労」。疲労科学研究の第一人者、近藤一博先生(東京慈恵会医科大学 疲労医学講座 特任教授)を講師にむかえ、お話いただきました。

近藤先生は、ヒトヘルペスウイルス6(HHV-6)の潜伏感染・再活性化機構を解明したほか、生理的疲労のメカニズムの解明、うつ病の原因遺伝子 SITH-1の発見、新型コロナ後遺症の原因の究明など、多くの業績をあげられ、本セミナーのタイトルと同題名の著書も出版されています。また疲労、うつ病やストレスを分かりやすくマンガで解説されたWEBサイト：マンガでわかる「最新！疲労・ストレス講座」を通して、一般の方への情報発信もされています。



マンガでわかる「最新！疲労・ストレス講座」
<https://jikeivirus.jp/hiroukouza/>

うつ病も、新型コロナウイルス後遺症も、疲労とウイルスが関係していた？！ 人はなぜ疲れるのだろう～世界をリードする疲労研究の最前線

多くの人が身近に感じており、さまざまな疾患の原因となる重要な現象である疲労について、実はそのメカニズムは良く分かっていませんでした。“お疲れさま”の挨拶が交わされ、過労死が社会問題になるなど、日本は欧米と比較して疲労に関心を持たれている方が多く、疲労科学の研究も進んでいます。開催前の事前質問にも150件を超える書き込みをいただきました。

講演では、はじめに下記1～6に示された各項目のポイントを紹介され、その流れにそって、質問への回答を織り交ぜながら、疲労の生理的メカニズムを分かりやすく解説いただきました。

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 疲労の分類(生理的疲労と病的疲労) | 4 新型コロナ後遺症から分かった病的疲労の治療・予防法 |
| 2 生理的疲労のメカニズム(原因/回復機構) | 5 うつ病を起こしやすい人とそうでない人の違いは |
| 3 病的疲労の代表、うつ病の発症機構 | 6 近い将来解決を目指している疲労の課題 |



参加者からは「ウイルスが疲労に関係しているという新たな知見を得ることができました。」「疲労と疲労感の違いという観点が新しい気づきでした。」「コロナ後遺症の研究と疲労・うつ病の研究が繋がったという事に驚きました。」など、たくさんの感想をいただきました。

日立財団科学技術セミナーは、一般市民の方に科学の面白さや科学の目で見える大切さを感じていただくことを目的として、最新の科学技術トピックスをテーマに年に1回開催しています。これまで取り上げたテーマ、開催記録はWEBサイトをご覧ください。

<https://www.hitachi-zaidan.org/activities/seminar/index.html>



日立感染症関連研究支援基金

国際シンポジウム開催案内(ハイブリッド)

日立財団は、2020年に日立製作所ならびに同社役員や社員、グループ会社役員からの寄付により、「日立感染症関連研究支援基金」を設立し、COVID-19禍への対処において顕在化したさまざまな問題をエビデンスに基づき学術的に調査、分析、考察し、その知見を国際的に共有することをめざす助成対象研究5件を採択しました。

研究活動は、2021年12月から3年間実施され、このたび、その成果を広く社会に共有するために国際シンポジウムを開催します。みなさまのご参加をお待ちしています。

<https://www.hitachi-zaidan.org/activities/fundsupport/topics/2412001.html>



参加申し込みはこちらから
 (参加無料/事前登録制)

